



三木高大 自治会新聞

令和 2 年 11 月号 (No.168)

発 行 三木市高齢者大学学生自治会

発行責任者 自治会会長 岡田 修

編 集 者 自治会新聞編集委員会

発 行 日 2020(令和 2)年 11 月 5 日

<http://koureisyadaigaku.cccp.jp>

新年度役員候補選出

『令和 3 年度自治会役員候補者 並びに正・副班長、実行委員の選出』

自治会規約第 6 条に従い、各学年の正・副班長により構成する役員推薦委員会を立ち上げ「令和 3 年度自治会役員候補者」を推薦してください。また、同規約第 7 条に従い、各学年の班員により「令和 3 年度正・副班長及び実行委員」を選出し、下記の通り報告をお願いします。

◇報告期限 役 員：令和 2 年 11 月 5 日（木）登校日

正副班長：令和 2 年 12 月 17 日（木）登校日

◇報告先 統括総務：藤本 迪弘（本人または事務室統括総務トレーまで）

自治会会長 岡田 修

専門講座だより（古典学科）

私が古文、源氏物語の講座を受講しようとした最初のきっかけは、高校時代に古文の先生との出会いでした。実は大学の入試に古文が必須だったからですが、かの先生は難しい文法からではなく、古文の面白さを教えて下さいました。大学受験も済み、従弟が与謝野晶子の源氏物語の上下 2 巻をお祝いにくれたのですが、なかなか読む機会がなく 60 年余りも本箱に寝たままでした。これはなんとかしなくてはならないと思い、新書版の岩坪 健著の「光源氏とティータイム」から入って行きました。

黒田 久美先生の源氏物語の講義が高齢者大学であると聞き知り古文を躊躇なく選択をしました。最初は先生の名前から想像をしてきっと綺麗な美人の先生であるに違いないと勝手にきめて、質問で美人の先生を困らせたならどんなに楽しいことであろうと思っていました。源氏物語の主人公の光源氏は今風に言うと女たらしのプレーボーイです。講義はちょうど夕顔の巻でしたので、きわどい質問で先生を困らせてやろうと思い、先生が顔を赤くして質問に答えて下さるかが見ものだと思っていました。ところが先生は年のころは 60 過ぎのジイちゃん先生。私ははたと困ってしまいました。私が苦労して作った質問が無駄になるではないか。ジイちゃん先生を困らせてもおもしろくもおかしくもない。反対にやりこめられてしまうのも癪だし。

夕顔と逢引きをする源氏をリアルに描き出す紫式部の筆力には今更ながら驚かされてしまった。千年前の平安時代の日本には表現の自由があり、検閲も何もないそのおおらかさをなんと言うべきか。古文と云うと何かしらおっかないと思うのですが、高貴な光源氏と平民に近い夕顔の逢引きシーンもあって今を生きる私たちを驚かせてくれます。だから源氏物語が古典文学として今を生きているのかな。とにかく平安時代は面白い世界です。

1 年 2 班 久保 洋一郎

まぼろしの体育祭

“体育祭フィナーレを迎える”

9月17日(木)、学年集会が開かれた日に「体育祭」がフィナーレを迎えた。といっても第29回高大体育祭ではなく、3年生のみで開いた「体育祭」である。昨年度、ご存じのように我が学年は総合優勝を果たした。1年生時の大差の最下位が恥ずかしく、必勝を期した2年生時は、走るレース種目に重点を置いたので、数人の方は希望したレースに出場出来なかった。このため、今年の体育祭は、3学年の出場者選考委員により、その方たちの希望を全面的に受け入れ、2年越しの夢を叶えるべく準備されたものでした。

ところが、今年はコロナ禍で「体育祭」が中止になった。当人は、恐らく念願するレースの出場を夢見て「今年こそ！」と、体力の強化など鍛錬に努めていた筈である。その方たちと、昨年度に出場の約束をしていた実行委員の私は責任を感じて、3学年の出場者選考委員の方に、3年生のみの「ラケットボール運びレース」1種目だけの「体育祭」を、教室の机、椅子を片付けて、扉、窓を全部開放して実施することを依頼した。

出場者は男女4名。リーダーは依頼されたFさん、学長代理Tさん、競技審判長Kさん、アナウンスFさんの4名のキャストである。美声のウグイス嬢の案内で始まり、選手へのエールは「フレーフレーTさん」と連呼。太鼓、手拍子で室内は応援一色になった。審判長の合図で競技がスタートした。キリッと黄色の鉢巻きを頭にしたTさんは、なかなかの健脚ぶりを披露し、テニスラケットからボールを落とすことなく旗を回り、10mを完走してゴールイン。みんなが想像以上の素晴らしいタイムを出して、相手がいなくて残念だが優勝した。閉会式で、学長代理のTさんから縦横約80cmの特大の優勝カップが選手代表に授与された。あまりにも重いので選手のTさん、Mさんの二人で受け取った。



終了後、Tさんから挨拶があり、「病気がちでしたが、これですっかり元気を取り戻しました。私の一生のよい思い出になりました。」と感謝の言葉を述べられた。ちなみにTさんは、我が学年の最高齢者でリレーの出場を切望したお一人であった。こうして私たちのもう一つの「体育祭」がフィナーレを迎え、終幕したのである。

体育祭実行委員長 3年1班 小原 武

学年通信（2年生）

新型コロナの影響で今年度の大きな行事が中止になり、高齢者大学の楽しみが無くなってしまい、なんとなく閉塞感を感じるこの頃です。というのは昨年4月に入学し、1年間で多くの行事を体験することにより、1年生の中でつながりが出来、さあこれからという時に休校、行事の中止となったからです。

とはいえ、6月から開校し、学校行事は中止となっても、学年の親睦会の活動は大いに盛り上がっています。昨年からはじめたグラウンド・ゴルフ練習、昼食会、ゴルフ大会は再開しました。7月にはスマホ教室も実施しました。10月からは各班で企画した今までにない親睦会も始まります。

1年生の時は学校行事に参加する時も判らないところが多く、困ったときにはみんなで助け合い、乗り越えてきました。おかげでみんなのことも良く判り、お互いの絆が強まったと思います。このような学校行事、クラブ活動、親睦会を通じ、2年生の中に「三木市高齢者大学に来てよかった」という声も出始めています。



まだまだ新型コロナには気を付けなければいけません。「元気はつらつ」をモットーに、高齢者として充実した生活を送りたいと思います。

2年3班 櫻木 穂

ひろば（1）

9月17日神戸新聞朝刊第1面の見出しは「菅内閣発足」、そして社会面には、作家 高村 薫さんのコメント。タイトルは「菅首相は『言葉を持たない人』」でした。ちょっと衝撃的なタイトルだったので丁寧に読んでみました。一部紹介させていただくと「(前略) 官房長官時代も、木で鼻をくくるような言葉遣いと切って捨てるような説明の仕方が特徴的だったが、『言葉を持たない人』という印象は強まった。(後略)」

また、私自身個人的に気になっていること。その役職からテレビにも頻りに顔が出るのですが、「スマイル（笑顔）の少ない人だなあ」という少しマイナスの印象です。

もう何十年も前のこと。仕事で海外視察に行くことがありました。その事前研修会での、ベテランツアーリストのアドバイスの一言、「この旅行の成功のカギは難しいことではありません。スマイルと思いやりです。」いろいろな説明の流れの中での一部でしたので、「まあ、当然やな」と軽く聞き流していました。しかし、実際に旅行に出てみて、この言葉の大切さを思い知らされることが多くありました。ある学校に視察に行った時のことです。私自身は最高に緊張していました。校舎に足を踏み入れた時、年配の女性の校長先生が何とも言えないスマイルで迎え入れてくださいました。その時、私自身を包んでいた緊張感が一気にほぐれたことを今でも鮮明に覚えています。ほんの数分の出来事ですが、私にとっては、衝撃的なことだったので。以来帰国してからも、このスマイルを本当に大切にしようと思ひ今に至っています。

そして、素敵なスマイルをお持ちの方がたくさんいらっしゃる高齢者大学です。

2年1班 米村 隆

3年が責任学年である令和元年度の自治会行事の最後を飾る大学祭も、従前のように盛大に行われ、本年3月から新3年生に自治会運営のバトンタッチを行った。

そのころ、中国武漢で発生した新型コロナウイルスによる国内感染が報道されはじめ、ダイヤモンド・プリンセス号の船内感染をかわきりに、国内の都市部に感染が拡大し、2月下旬に小中学校の臨時休校、3月に東京オリンピック・パラリンピックの1年延期、4月7日に7都道府県に緊急事態宣言が発出され、4月16日に全国にひろげられ、5月31日まで延長された。その後徐々に感染が下火になり、第一波は終息に向かうが、現在は、第2波の終焉期を迎えようとしている。



一方、新型コロナ感染の余波を受け、大学は休校となり、6月1日からの開校まで、講座、自治会行事、クラブ活動等が制限された。大学生生活の最後となる4年生の日々を、楽しく、和気あいあいと思い出づくりをしたいと思っていた矢先のことであり、3密を避けるため活動の自粛とマスク、手洗いの励行を余儀なくされている。

しかしながら、世界的に拡散した新型コロナウイルスのワクチンが普及し終息までの2、3年は、コロナとの上手な付き合いの中に、経済再生、人的交流を進めていく必要がある。国際情勢も不安定で、日本は安倍首相の突然の辞任による菅新政権の誕生、米国大統領選挙中のトランプ大統領がコロナ感染で、大統領選挙の行方が気になるところである。いずれにしても、高大4年生としては、卒業式・入学式の参列不可、スポーツデー、体育祭、研修旅行が中止となり、学年相互の交流機会が失われ、卒業までの大学生生活をいかにエンジョイするか、楽しい思い出作りができるかが問われている。

コロナを正しく恐れ、感染防止に努めることはもちろんであるが、人間は人とのつながりで生きていく生き物であり、行動自粛、自宅待機は精神的に内向きにするもので、決して進められるものではない。国の経済政策として、GoTo トラベルキャンペーン、地域経済策としてGoTo イート、プレミアム商品券の発行等様々な振興策が繰り広げられている。

これらの制度をうまく利用し、食事会、卒業旅行、懇親会などを計画するのも一考で、一部計画を進めている。直近では10月20日学年グラウンド・ゴルフ大会、11月8日～10日卒業旅行(東北草津・鬼怒川・日光ゴールデンルート)を予定している。



残る自治会行事である2月の大学祭の開催に向けて準備が進められているが、コロナ対策を十分に行い、是非実施したいものである。また、今年度の卒業式は、大学院との合同卒業式となる予定なので、思い出に残る式典にしたいと思っている。